

|| 企業調査レポート ||

フェローテックホールディングス

6890 東証スタンダード市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2025年1月15日(水)

執筆：客員アナリスト

寺島 昇

FISCO Ltd. Analyst **Noboru Terashima**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2025年3月期中間期の業績概要	01
2. 2025年3月期の業績見通し	01
3. 2027年3月期に営業利益600億円を目指す	02
■ 会社概要	03
1. 会社概要	03
2. 事業セグメント	03
3. 特色、強み	03
■ 業績動向	04
1. 2025年3月期中間期の業績概要	04
2. セグメント別概況	05
3. 主な設備投資	06
4. 主なトピックス	06
■ 今後の見通し	07
1. 2025年3月期業績見通し	07
2. 主要製品の現況と見通し	08
■ 中期経営計画	09
1. 中期経営計画の基本方針	09
2. 定量的目標 (KPI)	09
■ 株主還元策	10

■ 要約

2025年3月期中間期は半導体関連の回復等で9.3%の営業増益

フェローテックホールディングス<6890>の主力事業は、真空シール、石英製品、セラミックス製品、CVD-SiC（化学蒸着法炭化ケイ素）製品、磁性流体、サーモモジュールなどの様々な製品・装置・部品・素材等の製造である。加えて、半導体製造装置メーカー向けに各種部品等の洗浄サービスやシリコンウエーハの研磨なども行う企業である。

1. 2025年3月期中間期の業績概要

2025年3月期第2四半期（以下、中間期）決算は、売上高が前年同期比28.1%増の135,157百万円、営業利益が同9.3%増の14,251百万円、経常利益が同1.7%増の15,470百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が同9.5%増の9,190百万円となった。半導体市況が回復基調となったことに加え、積極営業を推進して顧客需要を捉えたことから増収を確保した。ただし、売上総利益率は製品構成の変化により4.3ポイント低下し、営業利益は小幅増益に留まった。事業別では、半導体業界の回復により、半導体等装置関連の売上高は84,042百万円（前年同期比39.5%増）、セグメント利益は8,363百万円（同7.4%増）となった。電子デバイス※では、主にサーモモジュールが寄与して売上高は23,085百万円（同22.6%増）、セグメント利益は3,992百万円（同19.7%増）となった。また車載関連※の売上高は14,304百万円（同2.1%増）、セグメント利益は1,323百万円（同51.8%減）となった。さらに営業外において、為替差益が742百万円と減少（前年同期は1,727百万円）したこと、持分法による投資損失が2,560百万円（同1,324百万円）と増加したことなどから経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益の増益幅は小さくなった。

※ 2025年3月期中間期から旧電子デバイスを「電子デバイス」と「車載関連」に切り分けた。

2. 2025年3月期の業績見通し

2025年3月期通期の業績は、現時点で売上高265,000百万円（前期比19.1%増）、営業利益26,000百万円（同4.5%増）、経常利益26,000百万円（同2.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益16,000百万円（同5.6%増）と予想しており、売上高は期初予想から上方修正されたが、営業利益以下は期初予想と変わっていない。これは、現在の市況において利益率の高い製品の売上構成比が下がると見られるためだ。下期に入っても、半導体業界を取り巻く環境に大きな変化はなく、この予想が達成される可能性は高いだろう。同社製品に対する需要が本格的に回復するのは2026年3月期以降と見られる。通期での投資額は60,000百万円（前期は75,227百万円）、減価償却費は24,000百万円（同16,398百万円）と計画している。

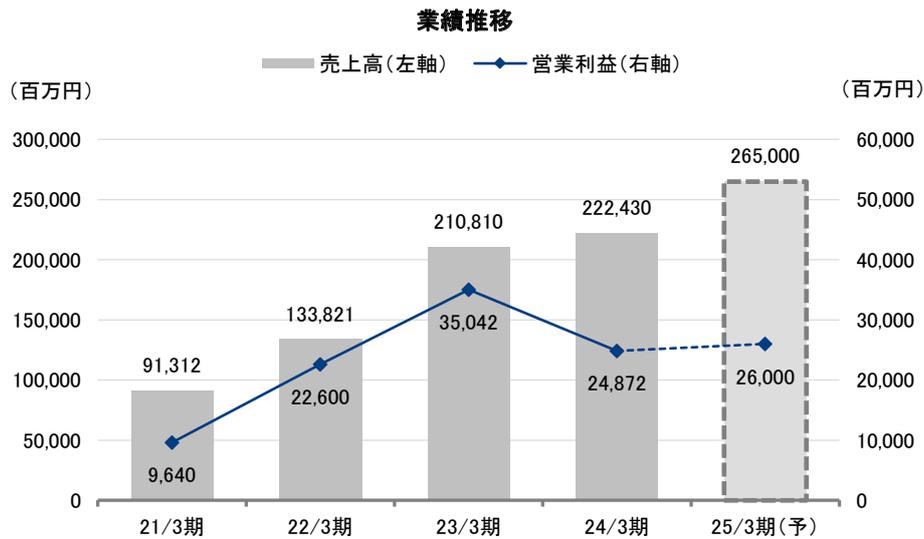
要約

3. 2027年3月期に営業利益600億円を目指す

同社は、2027年3月期を最終年度とする中期経営計画を発表済みで、最終年度の定量的な目標として売上高3,800億円、営業利益600億円、営業利益率15.8%、ROE15%を掲げている。またこの間の設備投資額は、3ヶ年(2025年3月期から2027年3月期)で1,400億円を計画している。現状では、この計画に沿って進捗しており、これらの目標数値は変えていない。株主還元増加を重視していることから、配当性向は20%~30%を意識して年間配当金を110円(当初100円予想)に増配、さらに自己株式の取得(取得上限5億円)も発表した。

Key Points

- ・石英やセラミックス等の無機系製品の大手メーカー。半導体業界向けが多い
- ・2025年3月期中間期の営業利益は前年同期比9.3%増、通期も前期比4.5%の営業増益予想
- ・2027年3月期に営業利益600億円を目指す



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

主要顧客は大手半導体デバイス及び同製造装置メーカー

1. 会社概要

同社は2024年3月末時点で傘下に連結子会社73社、持分法適用子会社9社を擁する純粋持株会社である。元々は1980年に米国 Ferrofluidics Corporation（現 Ferrotec (USA) Corporation）の日本法人「日本フェローフリュイディクス株式会社」として設立したが、その後、親会社から分離独立し独自路線を歩んでいる。

現在の主力事業は、真空シール、石英製品、セラミックス製品、CVD-SiC製品、磁性流体、サーモモジュールなど主に無機材料を使った様々な製品・装置・部品・素材等の製造である。加えて、半導体製造装置メーカー向けに各種部品等の洗浄や受託加工・組立サービスなどの事業も行っている。

2. 事業セグメント

前述のように同社は多くの製品を自社開発・製造すると同時にM&Aによって多くの企業を子会社化してきたことから、事業内容は多岐にわたる。事業セグメントは、半導体等装置関連（2024年3月期の売上高比58.5%）、旧電子デバイス（同30.4%）、その他（同11.1%）の3つに分けられており、それぞれサブセグメントが置かれている。

3. 特色、強み

(1) 無機系素材のパイオニア

同社は石英、シリコン、窒化ケイ素、シリコンカーバイド（SiC）など幅広い無機系素材の生成・加工などに長年携わってきた。そのため、社内にはこれらの素材に関する多くのノウハウ（素材の性質、生成方法、加工方法等）が蓄積されており、これが同社の特色かつ強みと言えるだろう。

(2) 製造装置も手掛ける

同社は、単に素材だけでなく各種の製造装置も手掛けており、製造装置に関するノウハウも持っている。そのため顧客に対し、素材・加工部品・最終製品・製造装置など様々な提案（ソリューションの提供）を行うことができる。

(3) ワンストップソリューションが可能

同社は、半導体製造装置内の部品の洗浄（取り外し・洗浄・据付）や製造装置の組立等のサービス事業も展開している。顧客にとっては素材の供給、部品加工、装置類の組立、部品洗浄などをワンストップで外注化（アウトソーシング）することが可能であり、これも同社の強みと言える。

会社概要

(4) 大手顧客との信頼関係

同社の主要製品は、主に半導体製造装置向け及び半導体製造プロセスで使われるため、同社の主要顧客は世界でトップクラスの半導体製造装置メーカーも多い。同社はこれらの大手半導体製造装置メーカーに長年にわたり製品や部品を供給しており、これら顧客との深い信頼関係も同社の財産であり強みとなっている。

業績動向

2025年3月期中間期は9.3%の営業増益、期初予想を上回る

1. 2025年3月期中間期の業績概要

(1) 損益状況

2025年3月期中間期決算は、売上高が前年同期比28.1%増の135,157百万円、営業利益が同9.3%増の14,251百万円、経常利益が同1.7%増の15,470百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が同9.5%増の9,190百万円となり、期初予想（売上高110,000百万円、営業利益12,500百万円）を上回った。半導体市況が回復基調となったことに加え、積極営業を推進して顧客需要を捉えたことから増収を確保した。ただし、売上総利益率は製品構成の変化により4.3ポイント低下し、販管費がほぼ予算どおりの12.1%増となったことから営業利益は小幅増益に留まった。

2025年3月期中間期業績

(単位：百万円)

	24/3 期中間期		25/3 期中間期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	105,494	100.0%	135,157	100.0%	29,662	28.1%
売上総利益	34,311	32.5%	38,111	28.2%	3,799	11.1%
販管費	21,276	20.2%	23,859	17.7%	2,583	12.1%
営業利益	13,035	12.4%	14,251	10.5%	1,216	9.3%
経常利益	15,217	14.4%	15,470	11.4%	252	1.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,390	8.0%	9,190	6.8%	799	9.5%
設備投資額※	33,423	31.7%	22,882	16.9%	-10,540	-31.5%
減価償却費	7,913	7.5%	11,241	8.3%	3,328	42.1%

※ 設備投資額 = 有形固定資産、無形固定資産の取得額の合計

出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

高水準の設備投資により有形固定資産と有利子負債が増加

(2) 財務状況

2025年3月期中間期末の財務状況は、流動資産が289,842百万円（前期末比41,434百万円増）となった。主に現金及び預金の増加2,941百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の増加27,105百万円、棚卸資産の増加11,549百万円による。固定資産は前期末比で41,329百万円増加し302,947百万円となった。主にマレーシア工場への投資を実施したこと等による有形固定資産の増加37,797百万円、無形固定資産の増加404百万円、投資その他資産の増加3,127百万円（関係会社株式の増加846百万円、その他の増加2,347百万円など）による。その結果、資産合計は592,790百万円（同82,763百万円増）となった。

負債合計は、268,209百万円（同36,349百万円増）となった。要因として、電子記録債務を含む支払手形及び買掛金の増加11,428百万円、1年内償還予定の社債と1年内返済予定の長期借入金を含む短期借入金等の増加3,052百万円、社債の減少320百万円、長期借入金の増加14,098百万円等による。有利子負債の合計額は151,990百万円となり、前期末（135,160百万円）から16,830百万円増加した。

また純資産合計は、324,580百万円（同46,414百万円増）となった。親会社株主に帰属する中間純利益の計上による利益剰余金の増加6,839百万円、円安進行に伴う為替換算調整勘定の増加27,233百万円、中国子会社への第三者割当増資による非支配株主持分の増加12,920百万円等によるものである。この結果、2025年3月期中間期末の自己資本比率は40.1%（前期末は40.1%）となった。

半導体等装置関連と電子デバイスがけん引

2. セグメント別概況

セグメント別では、半導体業界の回復により、半導体等装置関連の売上高が84,042百万円（前年同期比39.5%増）、セグメント利益は8,363百万円（同7.4%増）となった。電子デバイス（新区分）では、主にサーモモジュールが寄与して売上高は23,085百万円（同22.6%増）、セグメント利益は3,992百万円（同19.7%増）となった。また新たに切り分けられた車載関連の売上高は14,304百万円（同2.1%増）、セグメント利益は1,323百万円（同51.8%減）となった。その他の売上高は13,723百万円（同10.7%増）、セグメント利益は793百万円（前年同期は179百万円の損失）であった。

フェローテックホールディングス

2025年1月15日(水)

6890 東証スタンダード市場

<https://www.ferrotec.co.jp/ir/>

業績動向

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	24/3 期中間期		25/3 期中間期		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	105,494	100.0%	135,157	100.0%	29,663	28.1%
半導体等装置関連	60,257	57.1%	84,042	62.2%	23,785	39.5%
真空シール・金属加工	11,730	11.1%	19,347	14.3%	7,617	64.9%
石英製品	11,584	11.0%	16,134	11.9%	4,550	39.3%
シリコンパーツ	7,712	7.3%	7,172	5.3%	-540	-7.0%
セラミックス	11,657	11.0%	15,448	11.4%	3,791	32.5%
CVD-SiC	2,999	2.8%	3,992	3.0%	993	33.1%
EB ガン・LED 蒸着装置	3,011	2.9%	4,076	3.0%	1,065	35.4%
ウエーハ加工	43	0.0%	11	0.0%	-32	-74.4%
再生ウエーハ	753	0.7%	1,250	0.9%	497	66.0%
装置部品洗浄	5,424	5.1%	7,061	5.2%	1,637	30.2%
石英坩堝	5,341	5.1%	9,547	7.1%	4,206	78.7%
電子デバイス	18,834	17.9%	23,085	17.1%	4,251	22.6%
サーモモジュール	8,844	8.4%	12,431	9.2%	3,587	40.6%
パワー半導体基板	7,245	6.9%	8,692	6.4%	1,447	20.0%
磁性流体・その他	398	0.4%	575	0.4%	177	44.5%
センサー	2,344	2.2%	1,387	1.0%	-957	-40.8%
車載関連	14,006	13.3%	14,304	10.6%	298	2.1%
サーモモジュール	1,795	1.7%	3,108	2.3%	1,313	73.1%
パワー半導体基板	8,857	8.4%	9,628	7.1%	771	8.7%
センサー	3,352	3.2%	1,567	1.2%	-1,785	-53.3%
その他	12,396	11.8%	13,723	10.2%	1,327	10.7%
営業利益	13,035	12.4%	14,251	10.5%	1,216	9.3%
半導体等装置関連	7,788	7.4%	8,363	10.0%	574	7.4%
電子デバイス	3,335	17.7%	3,992	17.3%	656	19.7%
車載関連	2,745	19.6%	1,323	9.2%	-1,421	-51.8%
その他	-179	-1.4%	793	5.8%	972	-
調整額	-654	-	-220	-	434	-

出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

3. 主な設備投資

投資額（有形固定資産、無形固定資産の取得等の合計）は 22,882 百万円（前年同期は 33,423 百万円）となった。各事業の積極投資を継続、主な投資内容は、マレーシア Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. BHD（クリム工場）に 71 億円、マレーシアジョホール州の Ferrotec Power Semiconductor Malaysia Sdn. BHD に 51 億円、中国麗水市の浙江富楽徳伝感技術有限公司に 27 億円、中国常山の浙江富楽徳半導体材料有限公司に 27 億円、日本（石川工場等）に 27 億円などであった。減価償却費は 11,241 百万円（前年同期 7,913 百万円）となった。

4. 主なトピックス

(1) 各国の生産工場：マレーシアでの拡大が進む

下記に述べる中期経営計画の進展に合わせて、中国常山地区に金属加工、石英、サーモモジュール、セラミックス、SiP の拠点を置き、自動化・効率化を進めている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

フェローテックホールディングス

6890 東証スタンダード市場

2025 年 1 月 15 日 (水)

<https://www.ferrotec.co.jp/ir/>

業績動向

また米系大手半導体製造装置メーカー等の中国外生産ニーズに合わせて、マレーシアでの生産設備増強を進めている。北部のクリムでは、金属加工、石英、セラミックス、装置組立の工場が既に稼働を開始しており、顧客認定も進捗した。今後の状況によってはさらなる拡大の可能性もあるようだ。また南部のジョホールでは、パワー半導体基板、サーモモジュール、SiP 生産の計画が進んでおり、2024 年 12 月に稼働を予定している。

(2) FTSVA による FLH 子会社化計画

現在、中国の統括会社として同社の 100% 子会社である上海申和投資有限公司 (FTS) があり、その子会社として部品洗浄事業子会社である安徽富樂徳科技發展股份有限公司 (FTSVA) (深圳証券取引所創業板上場中、FTS の持株比率 50.24%) とパワー半導体基板事業子会社である江蘇富樂華半導体科技股份有限公司 (FLH) (FTS の持株比率 55.11%) があるが、FTSVA が株式交換 (FLH 株式を購入、FLH 株主に対し FTSVA 株式及び FTSVA 転換社債を発行し交付) を行い FLH を FTSVA の子会社とし、併せて公募増資を実施する計画だ。この株式交換により FLH が FTSVA の 100% 子会社となることで、FTSVA の企業価値が上昇すると同時に資金調達が多様化が図れるとしている。

今後の見通し

2025 年 3 月期の営業利益は期初予想と変わらず 4.5% 増予想

1. 2025 年 3 月期業績見通し

2025 年 3 月期通期の業績は、現時点で売上高 265,000 百万円 (前期比 19.1% 増)、営業利益 26,000 百万円 (同 4.5% 増)、経常利益 26,000 百万円 (同 2.0% 減)、親会社株主に帰属する当期純利益 16,000 百万円 (同 5.6% 増) と予想しており、売上高は期初予想から上方修正されたが、営業利益以下は期初予想と変わっていない。これは、現在の市況において利益率の高い製品の売上構成比が下がると見られるためだ。下期に入っても、半導体業界を取り巻く環境に大きな変化はなく、同社製品に対する需要が本格的に回復するのは来期以降と見られるが、この予想が達成される可能性は高いだろう。通期での投資額は 60,000 百万円 (前期は 75,227 百万円)、減価償却費は 24,000 百万円 (同 16,398 百万円) と計画している。

セグメント別売上高は、半導体等装置関連は 160,602 百万円 (前期比 23.5% 増) を予想。真空シール・金属加工、半導体マテリアル製品、石英坩堝、CVD-SiC ともに増収を見込む。

電子デバイスは 48,328 百万円 (同 15.8% 増) を予想。サーモモジュールは堅調に推移するものの、パワー半導体基板は下期から調整に入り微増の見込み。センサは子会社 (株) 大泉製作所の決算期変更 (9 ヶ月のみ) により減収を予想している。

車載関連は、31,688 百万円 (同 22.5% 増) を予想。自動車向けサーモモジュール及びパワー半導体基板は増加の見込みだが、センサは決算期変更の影響から減少を予想している。

その他は 24,381 百万円 (同 1.5% 減) とほぼ前期並みを予想している。

2. 主要製品の現況と見通し

(1) 真空シール・金属加工

半導体製造装置メーカーの需要が堅調で、常山工場が牽引する。マレーシア工場の立ち上げも順調であることから、売上高は前期比 51.7% 増の 38,289 百万円を予想している。

(2) 半導体材料（石英製品、シリコンパーツ、セラミックス、CVD-SiC）

石英は、火加工需要の取込み等により前期比 13.5% 増の 32,062 百万円を見込んでいる。

シリコンパーツは顧客の在庫要因で減収予想。売上高は、13,894 百万円（同 4.9% 減）を見込んでいる。

セラミックスも半導体製造装置メーカーの需要が回復し、新製品開拓により増加を見込む。売上高は 31,383 百万円（同 29.1% 増）の予想である。CVD-SiC は岡山工場の増産により売上は拡大の見通しで、売上高 8,010 百万円（同 17.2% 増）となる見込みだ。

(3) 装置部品洗浄

半導体生産の回復から、売上高は 14,597 百万円（同 24.6% 増）を見込む。

(4) 石英坩堝

太陽光発電向けが下半期から急減し、通期の売上高は 12,404 百万円（同 10.1% 増）に留まる見込みである。採算も悪化している。

(5) サーモモジュール（電子デバイス）

生成 AI 関連需要が増加し、売上高は 24,956 百万円（同 29.0% 増）となる見込みである。

(6) パワー半導体用基板（電子デバイス）

DCB（Direct Copper Bonding：直接接合法）基板は前下期の急増から一服、2025年3月期は 17,682 百万円（同 5.4% 増）に留まる見込みである。

(7) センサ（電子デバイス）

大泉製作所の決算期変更のため9ヶ月分だけ連結されるので、売上高は前期比 4.7% 減の 4,460 百万円を予想している。

(8) サーモモジュール（車載関連）

自動車向け需要を開拓し、売上高は 5,880 百万円（同 66.0% 増）となる見込みである。

(9) パワー半導体用基板（車載関連）

自動車向け AMB（Active Metal Brazing：活性金属接合法）基板の需要が増加し、売上高は 20,937 百万円（同 32.9% 増）の見込みである。

(10) センサ（車載関連）

大泉製作所の決算期変更の影響で減収予想。売上高は 4,869 百万円（同 25.9% 減）を見込む。

■ 中期経営計画

中期経営計画の目標値は変えず

1. 中期経営計画の基本方針

同社では、2027年3月期を最終年度とする中期経営計画を発表しているが、基本方針として以下の4つを掲げている。

(1) 事業成長

- ・半導体、自動車関連の事業成長を追求し、業界上位の事業を拡大させる。
- ・マレーシア、日本工場が中国外製造品の需要を取込み、中国工場が中国製造品の需要を取込む体制を強化する。

(2) 生産効率・競争力の強化

- ・量産能力を更に高めるため、デジタル化・自動化等を進め、工場の生産効率向上・競争力強化を追求する。
- ・「品質は命」と考え品質管理の徹底を継続、研究開発体制を強化、新製品・新技術の開発を推進する。

(3) 人材強化・企業文化

- ・人材重視を重要な経営戦略と位置付け、高度人材の採用、研修制度の拡充、株式報酬制度（RSU・PSU）の導入を進める。
- ・企業文化は企業の礎であり、「顧客を尊敬、従業員を尊敬し、勤勉と信用を尊重し、着実に行動し、革新を追求する」を活動指針に掲げ、浸透を進める。

(4) 財務・株主還元

- ・新增設工場の早期立上げ・業績貢献により、収益増強を図る。
- ・株主還元増加を重視、配当性向は20%～30%を意識、株主還元の拡充に努める。

2. 定量的目標（KPI）

今後3年間の売上高、営業利益、利益率等の目標は、進行中の2025年3月期の売上高だけが若干上方修正されたが、それ以外は変わっておらず、最終年度である2027年3月期には売上高3,800億円、営業利益600億円、ROE15%、自己資本比率40%の維持を目指す。

中期経営計画

定量的目標 (KPI)

(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想)	2026年3月期 (計画)	2027年3月期 (計画)
売上高	222,430	265,000	300,000	380,000
営業利益	22,872	26,000	40,000	60,000
(営業利益率)	11.2%	9.8%	13.3%	15.8%
当期純利益	15,154	16,000	22,000	30,000
ROE	7.8%	→		15.0%
自己資本比率	40.1%	40.0%	40.0%	40.0%
設備投資額	75,227	60,000	40,000	40,000

出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

株主還元策

「総還元性向 30% を意識」と改定、自己株取得も発表

同社は、本中間決算時の中期経営計画資料中で株主還元策の方針を「株主還元増加を重視、持続的な収益増強による配当の増加を目指しながら、自社株買いも機動的に活用、総還元性向 30% を意識して、利益還元を図っていく」と改定、進行中の 2025 年 3 月期の年間配当金を 110 円（当初 100 円予想、前期実績 100 円）に増配し、さらに自己株式の取得（取得上限 5 億円）も発表した。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp